

戦略ロードマップ改訂にあたり

日本原子力研究開発機構
理事長 小口 正範

高速炉開発にかかる戦略ロードマップの改訂にあたり、以下の通りコメントします。

- 今回提示された戦略ロードマップ改訂案に賛同する。
- 昨今のエネルギー情勢、原子力に関する国内外の動向を踏まえ、より具体的に実証炉の概念設計及び必要な研究開発を行うことが明記されたことは大変意義があると思う。
- 2028年頃に予定する次ステップへの判断に向け、関係する機関がそれぞれの役割を果たし連携して開発を進めること、これに必要な予算を確保することが重要である。
- また、サプライチェーン維持、技術継承の観点から、具体的なものづくりを伴う早期のプロジェクト推進が必要と認識している。
- 高速炉開発に長年取り組んできた原子力機構は、開発の要となる司令塔に積極的に参画するとともに、プロジェクト遂行に必要な責務を果たしたい。
- 本ロードマップ改訂案に基づいて着実に開発を進めるには、国内の人材や技術基盤を維持・発展させていくことも重要と考える。関係機関と協調して研究開発インフラの整備も着実に進めていきたい。

以上